

『新修 福岡市史』編纂における調査の状況について—新出史料の紹介を中心に—

1. はじめに

平成 10 年に旧『福岡市史』の編纂が一旦終了した。この『福岡市史』は、明治期から昭和期かけての福岡市政史としての体裁をとったものであり、全時代を通した歴史を記述する目的のものではなかった。そのため平成 13 年に原始から現代までの福岡市の歴史を「福岡市史」として編纂するべく、市長決裁のうえ「福岡市史」編纂について基本方針が策定された。

平成 16 年に市史編さん室が福岡市博物館内に設置され、編纂事業に関わる各種計画や資（史）料の調査・収集、執筆や編集などを行う主体として福岡市史編集委員会が設けられ、その下部に「考古」「古代」「中世」「近世」「近現代」「民俗」の各専門部会をおき、各部会に嘱託を 1 名ずつ配置、それぞれの部会ごとに活動が開始されることとなる。

平成 22 年に第 1 回配本として『資料編 中世 1 市内所在文書』、『特別編 福の民—暮らしのなかに技がある—』を刊行。現在第 5 回配本『資料編 中世 2 市外所在文書』、『資料編 近世 2 家臣とくらし』まで計 10 冊の刊行が終了している。

平成 36 年までに通史編、資料編、民俗編、特別編を計 35 巻刊行する予定で現在編纂事業が展開しており、その活動については、年 2 回発行の広報誌『市史だより Fukuoka』、年 1 回発行の研究誌『市史研究ふくおか』でその概略を紹介している。

今回の報告では、平成 26 年時点での近世部会における史料の収集状況を示した後、その中でも各個人や寺院が所蔵し、いまだ目録が公刊されていない史料群について、若干の史料を提示しつつ紹介したいと思う。

2. 史料の収集状況について

近世専門部会では、当初は福岡市を中心とする諸機関所蔵の史料を中心に収集を行なった。また既刊の資料編「近世 1」、「近世 2」、特別編「福岡城」の刊行に合わせて調査・収集を行っていたため、藩政史料、福岡藩主黒田家関係および武家に関する史料群、写真や地図・絵図資料が多くを占める。現時点ではかなり偏りが見える【表 1 参照】。

○近世部会担当の刊行予定巻

- 通史編 『近世 1』『近世 2』『幕末・維新』（近現代部会と合同？）
- 資料編 《既刊》『近世 1 領主と藩政』『近世 2 家臣とくらし』
《未刊》『近世 3 町方・寺社（仮）』『近世 4 村と浦（仮）』
- 特別編 《既刊》『福岡城—築城から現代まで—』（※近現代部会と合同で）
《未刊》『地図・絵図』

3. 新出史料の紹介

近世専門部会が行った個人・寺社所蔵の文書群は、全 36 件（個人 23 件、寺社 13 件）。公的機関や自治体史編纂等に関連する調査が今回初めてと思われる史料群は 19 件（個人 13 件、寺社 6 件）。すでに調査が行われていた史料群のなかで、追加で新出史料が確認出来た文書群は 6 件（個人 4 件、寺社 2 件）【表 2 参照】。調査に際しては目録の作成とデジタルカメラでの撮影を行った。

①内海家文書・内海家資料（計 12 点）

内海家文書は『蘭溪翁記録一〜九』、『御薬園傳書 十二』の計 9 冊。内容は蘭溪自身、薬種、家族の病歴、処方、福博の町の様子、筑前領内外の災害など多岐にわたるが、それぞれの記述は簡素。一時呉服町にあった藩の薬園についての概略が分かるほか、『本草正画譜』に関連して藩主斉清とのやりとりのが記され、斉清の博物学の造詣の深さの一端がうかがえる。

内海家について…内海家は播磨国姫路出身、2 代太郎兵衛が豊前中津にて黒田如水に仕え、筑前にて長政に仕え、老年 200 石拝領。その後帰農し御笠郡観世音寺¹³に住す。5 代仁右衛門時に絵師として 20 石 6 人扶持拝領するも、のち浪人となり、7 代目安右衛門代より呉服町にて商家となる。

内海蘭溪 …第 10 代。屋号は鞍屋。元文 4（1739）年生～文政 2（1819）年没。宝暦 12（1762）年に薬問屋株を購入し、薬舗を開く。のち薬園を併設するが、その薬園は寛政 12（1800）年に藩の薬園となり、薬園掛として 3 人扶持拝領。文化 4（1807）年御薬園請持、5 人扶持拝領。

『本草正画譜』…植物図譜。全三十冊。寛政13年に上梓。文化8年斉清へ上覧。現在福岡市博物館に25冊と目録1冊、九州大学農学部に5冊(1冊は白紙。題簽には「本草正画譜 第十八 蔦草類」とある)が所蔵されている。

②菊池家文書(356点)

近世期は今村姓、明治二年に改姓。肥後国出身、光之期に筑前へ来て出仕。無足組。近世中後期の五兵衛、小十郎代の勤方の記録や各規定類(皿山・御樂所関係、国境警衛関係、旅人取締関係、紙方仕組関係)、近代に入っては各神社の祠掌を歴任する菊池澄鮮関係の史料が多く見られる。また西学問所関連して亀井南冥・昭陽の書翰類が含まれる。

③郡家文書(892点)

家老郡正太夫家の文書群。郡家は元豊臣秀吉の御家人、慶長期に長政に仕え、光之期に至り出頭し五千石を拝領する。その後代々中老となる。大半は折紙や継紙などの一紙もの、少し縦帳、綴が確認できる。内容としては近世前期から後期に至るまでの書状類が大量に含まれる特に忠之期の文書が多く確認することがきる。黒田騒動に至るまでの時期の文書が多く含まれ、倉八が馬、隼などの調達に携わっていることも確認できる。延宝6(1678)年～元禄13(1700)年にかけて記された年代記が草稿として残る。家譜の草稿か。

④佐藤太兵衛資料(72点)

福岡本町で酒造業を営む福岡年行司佐藤家の史料。屋号は綿屋。大きく系図類、券帳、出納の帳簿類、年代記・記録類に分けられる。ただしまだ未調査の史料があるため全容は不明。天明6(1786)年～文政12(1829)年にかけての酒造に関する諸々を記した記録、享保9(1724)年から文久元(1861)年までの様々な事項を書き留めた「萬記録」、ごく一部ではあるが「博多津要録」を抜粋してまとめた「記録」などがある。出納簿には三奈木黒田や立花、野村などの家老たちへの貸付がうかがえる。

⑤澤野家文書(1495点、うち大野家関係は241点)

文書群は大きく澤野家関係と高木家関係、大野家関係の3つに大別される。3家は親戚であるため、現在澤野家に文書が集積されている。ただし澤野家に関する史料はなく近代に樋井川村の村長を勤める高木一雄関係の史料がほとんど。高木一雄が収集した明治初年浅香茂徳関係の書簡類が多く含まれる。大野家は近世時代々大工頭を勤めた家。「大工支配役勤方心得之次第」の他、升の製作、管理は大野に任されていたとのことで、升関係の史料が多く含まれる。

⑥久野家文書(231点)

乙丑の獄で切腹した久野将監の家に伝わった文書群。拝領高目録や加増目録類、拝領地の軒付帳や絵図類がある。荒戸伊崎山にあった別荘放眼亭についての記録、陪臣の系図を記した「福岡系図纂」、陪臣の由緒や知行所の村々からの納物の内訳などを記した「諸覚」などがある。将監の肖像写真あり。

⑦平井嘉樹資料(497点)

家老久野家分家の久野助右衛門の次男が養子として平井家に入るためか、享保十二年の政変で罷免される久野弥五右衛門の知行目録、その政変について記した「遺録秘決 全」が入る。平井氏は美作から来た八杉氏の分家にあたる。帰農した際に「平居」を名乗る。綱政代に召し出される。無足組。史料は版本、写本類を多く含む。また領外の城郭の縄張図や遠賀・鞍手・穂波などの各村の絵図がある。遠賀の絵図は御山目付や郡目付を歴任した平井清次郎が御開奉行に任じられた関係で含まれるものと思われる。獺や御山目付の関係でその勤務記録である「役事録 乾坤」、「在宅定写」「侍従様御獺御立目付」、「御獺要略」が見られる。また平井清次郎の一代記となる「(仮)平井家諸願覚 勤功明細書」(『資料編近世2』に翻刻・掲載)がある。

⑧御田家文書(36点)

香椎宮神官。御田家系図、神道裁許状のほか昭和期の早辻社の末社編入関係の資料。大友義統書状が1通あり。

⑨三宅家文書(1046点)

無足組。黒田二十四騎の三宅若狭家義の弟重行家の3代目重勝からの分家。三宅与次右衛門元範によって家の系図や記録類がまとめられる。元範の子元資以降の記録は、近代の史料も含めてあまり見あたらない。元範は自分の一代記にあたる「三宅与次右衛門元範一世中要用録 上」「三宅十右衛門一世中要用録 下」をまとめる(『資料編近世2』に翻刻・掲載)。「要用録」の記事は職務だけに止まらず、家の私的な生活にまで記述が及ぶ。元範関係で残されている書状類と合わせることで、無足クラスの武士の公私にわたる生活のかなりの部分が見て取ることができる。また元範が勤めた役職の内、御座敷奉行関係の史料が残っており、その職務についてうかがえる。さらに幕府の奥医師である橘隆庵の接待

に関する史料「寛政七年卯夏橘隆庵老御出之節書留」があり、斉隆の療治のために幕府から派遣された橘隆庵を諸用聞次役となった元範他が接待する様子が詳細に分かる。

元範	宝暦6年	家督相続。20石6人扶持。無足組。
	明和4年	御無足勤仕。
	明和7年	江戸詰方、御給仕番勤務。11月に江戸桜田御前様付小姓へ転役。
	明和9年	桜田屋敷類焼のため、御作事日付勤務。
	安永2年	普請終了まで江戸詰被仰付、同4年に帰国。
	安永9年	京都丸太町御構詰方錠口日付勤務。天明2年詰越。
	天明9年	御台所日付勤務。御金蔵見ヶメ兼帯。寛政4年帰国。
	寛政5年	橘隆庵老筑前滞留中の諸用聞次役勤務。同秋隆庵老帰府付添。
	寛政5年	山方御仕組銀請持役勤務。
	寛政7年	橘隆庵老筑前滞留中の諸用聞次役兼帯。御座敷奉行勤務。
	寛政11年	江戸御座敷方詰。
	文化元年	2石加増、都合22石6人扶持。
	文化11年	3石加増、都合25石6人扶持。

橘隆庵元春（宝暦5年～？）

安永3（1774）年12月22日初めて將軍家治へ拜謁。天明（1781）元年閏5月5日奥医師となり、12月16日法眼に叙される。天明8年に5月8日には蓮光院（家治側妾）に附属する。寛政10（1798）年8月29日家督相続（43歳、采地700石）

隆庵は寛政7年7月15日に福岡着、その足で御館へ罷出。その後日々館に参り、8月25日に帰府する。

⑩山前文書（46点）

御山目付をつとめる。〔山前家古文書〕として原田氏関係の中世文書を貼付する卷子あり。

⑪宗勝寺文書（14点）

東区下原にある曹洞宗寺院。小早川隆景の家臣乃美宗勝の菩提寺。

⑫福岡縣護国神社所蔵資料（36点）

護国神社の前身である招魂社関係の史料群。招魂社の設置から護国神社への移転に至る経緯、招魂社での祭典、修繕や物品購入の内訳に至るまでを記した綴類。他に昭和18年の護国神社創建前後から平成に至るまでの写真類あり。

⑬萬行寺文書（4106点、うち近世文書約560点、他に典籍621件）

博多祇園町にある浄土真宗寺院。近世期は触頭を勤める。多くは近代以降の史料。寺の由緒を記した史料として「御尋二付申上由緒書」「文政三辰五月青柳勝次殿へ出ス寺記草稿」がある。『筑前国統風土記拾遺』に記載される戦国から近世初期にかけての文書は現存。寛政10（1798）年～文久三（1863）年にかけて5冊の御触書の写、嘉永6（1853）年作成の「寺要録 第一～三」がある。近代では七里恒順関係史料、龍華孤児院関係史料がある。

4. 追加で出てきた新出史料

- ・麻生文書 … 伊藤常足関係史料
- ・小寺文書 … 黒田家福岡家職関係史料
- ・野村家文書 … 「野村家憲」「蓮堀拝借願」「福岡馬車軌道敷設願」
- ・松本家文書 … 宝暦～明和期、天保～弘化期の船方関係記録
- ・志賀海神社文書 … 「御用一切日記」「内記」、伊藤小左衛門奉納物
- ・明光寺文書 … 「寛政一乱記」「御本山一乱記」

5. おわりに

【表1】近世専門部会収集の史料群

機関	文書群名		
福岡県立図書館	明石(修)家文書 大田資料 大野文書 木村(俊)收藏資料 楠原(花)文書 黒田家文書 黒田家文書(2次) 許斐(慧)文書	斎藤文書 篠原文書 末次文書 干胡(清)文書 立花文書 富田文書 中村文書 土師文書	原(公)文書 久野文書 福岡県史編纂資料 船津(嘉)家文書 水崎(雄)家文書 守次(恒)文書 吉田(光)文書
九州歴史資料館	藤井(甚)文書	福岡藩関係史料	林(美)文書
福岡市博物館	明石家資料 荒巻信子資料 飯田覚資料 井手道子資料 井手道子資料(追加) 伊藤達也資料 井本文書 岩元忠正資料 大賀寛資料 大坂津嶋屋文書 大多和喜八郎資料 大多和喜八郎資料(追加) 大塚文書 大音繁太資料 大音繁太資料(追加) 大山文書 岡本千秋資料 糟屋郡平野家文書 上村陽一資料 河村道博資料 菅家資料 菅亨資料 喜多島眞資料 桐山家文書 榎田正巳資料 榎田祐一郎資料 榎橋定夫資料 具足師田中家資料 黒田家資料	黒田つる資料 黒田藩御銀奉行関係資料 肥塚薫資料 是松英光資料 坂田立子資料 重松一資料 篠原正路資料 清水駿一資料 下沢・北崎資料 庄野家文書 水鏡神社資料 周防憲男資料 周防憲男資料(追加) 関善行資料 田隅夕木資料 立花俊彦資料(追加) 田中(主)文書 塚本家資料 塚本家資料(追加) 鶴久二郎旧蔵資料 戸川愛子資料 内藤家資料 中江家資料 中江恒生資料(追加) 長野種正資料 中村伊右衛門資料 納屋弘資料 西村長實・榑崎久矩資料(追加) 橋本友美資料(吉留家)	原三信資料 原田(北原)家資料 久野英子資料 平山敏治郎資料 広羽家文書 福岡藩絵図資料 福岡藩大組大野家資料 福岡藩大組大野家資料(追加) 福岡藩関係資料 福岡藩重臣杉山尚行日記 藤井家資料 藤井甚太郎関係資料 二川相近資料 屏山文庫旧蔵資料 堀宗次資料 松田家文書 松村緑資料 松本家文書 松本文書 三奈木黒田家資料 宮崎和子資料 宮崎安尚資料 明治測量資料 山口武資料 山崎文書(種信関係) 吉留文書 萬屋(加納氏)文書 若松家文書
福岡市総合図書館	伊丹資料 市丸三郎資料 伊藤小左衛門文書 猪野文書 衣非資料 大西文書 大野文書 大山文書 奥山文書 小河資料 神屋庄二郎文書 神屋二郎文書	神吉文書 旧福岡市史編纂資料 榎田神社文書 黒田家文書(筑女) 警固村絵図資料 斎藤文書 次郎丸石橋文書 高田氏収集資料(追加) 都筑文書 手塚資料 土居流記録 東長寺文書	戸畑文書 西村光博資料 祝部資料 前田文書 妙楽寺毛利文書 三宅剛照資料 毛利(シ)文書 毛利(シ)文書(追加) 森安平資料 山路文書 山中立木資料
九州大学	大野家旧蔵本 大野家文書 中央図書館所蔵史料 農学部所蔵史料	檜垣文庫 広瀬文庫 法学部法制史料 増田家文書	三奈木黒田家文書 吉田家文書
福岡大学	中村家文書	山崎家文書	
その他団体・機関・部署	永青文庫 大濠公園能楽堂 九州国立博物館 京都国立博物館 京都大学付属図書館 京都大学法学部図書室 宮内庁書陵部 鞍手町歴史民俗博物館 国文学研究資料館 国立公文書館 国立国会図書館	国立福岡中央病院城内会 財務省福岡財務支局 佐賀県立図書館 シムボルト記念館 神宮文庫 天理大学図書館 東京大学史料編纂所 長崎歴史文化博物館 奴国の岳歴史資料館 広島大学 福岡県水産海洋技術センター	福岡市漁業協同組合唐泊支所 福岡市市立福岡女子高等学校 福岡市役所都市計画課 福岡市立警固中学校 福岡市立博多工業高校 福岡市立舞鶴中学校 福岡舞鶴高等学校 山口県文書館

【表2】個人・寺社所蔵の史料群

○…今回初調査？
△…追加で新出史料を確認

	文書群名	内容	備考
個人	△ 麻生文書	筑前国麻生荘を本拠とした麻生氏、のち福岡藩士	『麻生文書』(九州史料叢書39、1966)、『筑前麻生文書』(北九州市立自然史・歴史博物館、2001)、『福岡県史 福岡藩初期(上)』(1982)に翻刻
	○ 内海家文書 内海家資料	博多呉服町の薬種商	福岡市博物館にて預かり 系図、過去帳、蘭溪肖像画
	○ 小川家文書	福岡藩士、大組	福岡県地域史研究所にて調査 市史にて撮影を行う
	○ 上村文書	黒田長政書状3通、福岡城図	個人蒐集の文書群
	○ 菅家文書	福岡藩士、無足組	『福岡市歴史資料所在確認調査報告書』(1982) 『福岡県立図書館収集文書目録 第1輯』(1986)
	○ 菊地家文書	福岡藩士、元今村氏、のち菊地に改姓 明治期鳥飼、水鏡宮の神官	
	○ 郡家文書	福岡藩中老	
	△ 小寺文書	もと播磨国の有力領主、のち福岡藩、馬廻組	福岡県地域史研究所にて調査・撮影 未調査分を市史にて調査・撮影
	○ 佐藤太兵衛資料	福岡年行司、福岡本町で酒造業	福岡市博物館に近代の教科書類を寄贈
	○ 澤野家文書	福岡藩士、無足組	高木家、大野家(大工頭)と親戚のため、両家の史料も含む
	△ 野村家文書	黒田24騎の一人野村祐勝家、福岡藩中老	福岡市博物館にて預かり、「野村家系譜」は北九州市立自然史・歴史博物館に寄託 福岡県地域史研究所にて調査・撮影 未調査分を市史にて調査・撮影を行う
	○ 林銃八郎文書	黒田24騎の一人林直利家、福岡藩中老	福岡県地域史研究所にて調査・撮影 絵図類を中心にデジタルカメラにて撮影
	○ 久野家文書	幕末の福岡藩家老久野一角家	
	○ 平位家文書	杷木町久喜宮庄屋	福岡県地域史研究所にて調査・撮影 市史にてデジタルカメラで撮影
	○ 平井嘉樹資料	福岡藩士、無足組	福岡市博物館にて預かり
	○ 深川好美資料	元小早川氏家臣、宗像郡下西郷に帰農	
	○ 福井家文書	福岡藩士、馬廻組	「福井系図」
	○ 不破家文書	元竹中半兵衛家臣、福岡藩士喜多村家	
	△ 松本家文書	福岡藩士、大組、船手頭	福岡県地域史研究所にて調査・撮影 未調査分を市史にて調査・撮影
	○ 御田家文書	香椎宮宮司御田家	
○ 三宅家文書	福岡藩士、無足組		
○ 山前文書	元原田氏家臣、のち帰農		
○ 横田文書	住吉神社宮司横田家	『福岡市歴史資料所在確認調査報告書』(1982)	
寺社	○ 西光寺文書	飯塚市馬敷、浄土真宗本願寺派	『西国浄土真宗文化財調査研究報告書(三)』(筑紫女学園大学、2013) 筑紫女学園大学と合同で調査
	△ 志賀海神社		大谷光男氏と合同で調査
	○ 承天寺文書	博多御供所町、臨濟宗東福寺派	
	○ 住吉神社文書		『福岡市歴史資料所在確認調査報告書』(1982)
	○ 善導寺文書	博多蓮池、浄土宗	九州の寺社シリーズ4『筑前博多 善導寺』 文化財部と合同で調査
	○ 仙林寺文書	嘉摩市桑野、浄土真宗本願寺派	『西国浄土真宗文化財調査研究報告書(三)』(筑紫女学園大学、2013) 筑紫女学園大学と合同で調査
	○ 宗勝寺文書	東区下原、曹洞宗	
	○ 長教寺文書	嘉摩市熊ヶ畑、浄土真宗本願寺派	『福岡県古文書等緊急調査報告書』(飯塚市・山田市・嘉穂郡)1983 筑紫女学園大学と合同で調査
	○ 長明寺文書	飯塚市桂川町土師、浄土真宗本願寺派	『西国浄土真宗文化財調査研究報告書(三)』(筑紫女学園大学、2013) 筑紫女学園大学と合同で調査
	○ 笹崎宮文書		『笹崎宮収蔵品並田村文書目録』(1988)
	○ 福岡縣護国神社所蔵資料		
	○ 萬行寺文書	博多祇園町、浄土真宗本願寺派、触頭	文化財部・筑紫女学園と合同で調査
△ 明光寺文書	早良区石釜、浄土真宗本願寺派	『福岡市歴史資料所在確認調査報告書』(1982) 文化財部と合同で調査	

3 『新修 福岡市史』刊行年次計画

区分	通巻	名称	担当 部会	刊行年（平成）													
				22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
通史編	1	考古	考 古										○				
	2	古代	古 代									○					
	3	中世	中 世											○			
	4	近世1	近 世												○		
	5	近世2														○	
	6	近世・近代(幕末・維新～明治10年)	近 世 近現代												○		
	7	近現代1	近現代													○	
	8	近現代2												○			
	9	近現代3													○		
資料編	10	考古1	考 古						○								
	11	考古2										○					
	12	考古3 遺物からみた福岡の歴史			◎												
	13	古代1	古 代							○							
	14	古代2										○					
	15	中世1 市内所在文書	中 世	◎													
	16	中世2 市外所在文書					◎										
	17	中世3										○					
	18	近世1 領主と藩政	近 世		◎												
	19	近世2 家臣とくらし					◎										
	20	近世3								○							
	21	近世4										○					
	22	近現代1 維新見聞記	近現代			◎											
	23	近現代2						○									
	24	近現代3									○						
25	近現代4											○					
民俗編	26	一 春夏秋冬・起居往来	民 俗			◎											
	27	二 ひとと人々						○									
	28	三 夜と朝									○						
特別編	29	福の民-暮らしのなかに技がある-	民 俗	◎													
	30	自然と遺跡からみた福岡の歴史	考 古				◎										
	31	福岡城-築城から現代まで-	近 世 近現代				◎										
	32	近代福岡の印刷と出版	近現代						○								
	33	対外交流	各専門 委員									○					
	34	地図・絵図												○			
	35	年表・総目次・索引														○	
発行数				2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3

注1) ◎は既刊。○は未完

注2) 各編の構成及び刊行年次については、資料の収集、調査研究の進捗状況により計画的に見直しを行うものとする。

注3) 未刊の巻は、名称の変更、副題の変更、追加等をする場合がある。